

今年の梅雨はどうか？ウェザーニュース、2020年「梅雨入り・梅雨明け見解」を発表
西・東日本の梅雨入りは平年より遅い予想、今年の梅雨は短め
 ～梅雨の総雨量は平年並か多い予想 6月下旬～7月中旬は大雨災害に注意～

株式会社ウェザーニュース(本社:千葉県美浜区、代表取締役社長:草開千仁)は、2020年の「梅雨入り・梅雨明け見解」を発表しました。今年は梅雨前線の北上が遅れる影響で、九州～関東で平年より遅い梅雨入りとなる予想です。西日本では、記録的に遅い梅雨入りとなった昨年よりは早いものの、九州や四国など平年より1週間程度遅れる地方もある予想です。一方、梅雨明けは概ね平年並の予想で、東北北部と沖縄、奄美を除く多くの地方で平年よりも短い梅雨となりそうです。ただ、本州付近に暖かく湿った空気が流れ込みやすい気圧配置となるため、梅雨の総雨量は、東北と北陸で平年並、その他は平年並か多くなる見通しです。

雨のピーク時期は、沖縄・奄美で5月末～6月中旬、西・東日本の広範囲で6月下旬～7月中旬になる予想です。各地方で大雨や強雨の恐れがあり、河川の増水、家屋への浸水、土砂災害などに注意が必要です。本格的な雨の季節に備え、側溝や雨どいの掃除など、対策を行っておくことをおすすめします。

最新見解はスマホアプリ「ウェザーニュース」の「おしらせ」または、ウェザーニュースウェブサイト「梅雨情報」からご確認いただけます。雨の季節を少しでも安全で快適に過ごせるようお役立てください。

本プレスリリースの素材のダウンロード	梅雨入り・梅雨明け見解の一般向けサイト	梅雨の最新見解はこちら
ウェブ版プレスリリース「梅雨の天気傾向」 https://jp.weathernews.com/news/31380/	ウェザーニュースウェブサイト「梅雨見解2020」 https://weathernews.jp/s/topics/202005/180135/	ウェザーニュースウェブサイト「梅雨情報」 https://weathernews.jp/s/news/tsuyu/

◆2020年「梅雨入り・梅雨明け見解」

～梅雨入りは平年より遅い地方が多く、平年より短い梅雨に～

今年は5月10日に奄美で、11日に沖縄で梅雨入りが発せられました。奄美では昨年より4日早いものの平年並、沖縄では昨年より5日早く、平年より2日遅い梅雨入りとなりました。九州から東北の梅雨入りは平年より遅くなる地方が多い予想です。昨年は九州北部、四国、中国、近畿で、1951年以降で最も遅い梅雨入り(※特定しなかった年を除く)となり、九州北部より東北が先に梅雨入りするなど変則的でしたが、今年も6月は太平洋高気圧の張り出しが例年と異なる予想のため、梅雨前線の北上がやや遅れることが考えられます。そのため、九州と四国



図1 梅雨期間の傾向

の梅雨入りは平年よりも一週間程度遅くなる可能性があります。一方、梅雨明けは全国的に昨年より早く、平年並になりそうです。昨年、最も遅い梅雨明けとなった沖縄でも、今年も平年並の6月下旬に梅雨明けする見込みです。梅雨期間は東北北部と沖縄、奄美を除いた多くの地方で平年より4日以上短くなる予想です。東北北部と沖縄、奄美では平年並の期間となる見込みです。

日本の天候に係る熱帯の対流活動に注目すると、6月はインド洋の赤道付近で対流活動が活発になるのに対して、フィリピン付近では不活発となる傾向です。この影響で、日本付近では太平洋高気圧の強まる位置が平年より南に偏り、梅雨前線の北上がやや遅くなります(図2)。7月にかけてフィリピンの東海上で対流活動が活発になり、太平洋高気圧が本州付近への張り出しを強めるため、太平洋高気圧に押し上げられて梅雨前線が北上します(図3)。沖縄では6月下旬に梅雨明けし本格的な夏が到来する一方で、前線が停滞しやすくなる九州から東北では、7月中旬にかけて大雨に警戒が必要です。

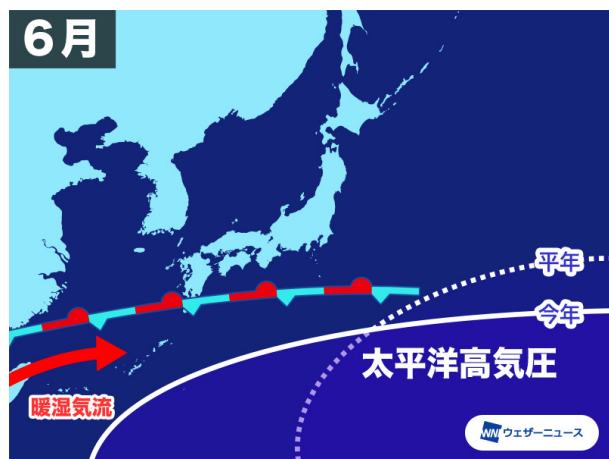


図2 6月の天気図イメージ



図3 7月の天気図イメージ

～西日本や東日本は6月下旬から7月中旬に雨のピーク、太平洋側を中心に大雨災害に警戒～

今年の梅雨期間の雨量は、東北、北陸で平年並となるものの、その他の地方では平年並か多い予想です(図4)。

6月は梅雨前線を押し上げる太平洋高気圧の北への張り出しが平年より弱く、前線は南西諸島付近に停滞します。このため、沖縄や奄美では6月前半を中心に暖かく湿った空気が流れ込みやすく、前線の活動が活発化する日があり、5月末から6月中旬にかけて大雨や豪雨に警戒が必要です。また、九州南部でも梅雨入り早々大雨となる恐れがあります。今のうちに、河川の増水や家屋への浸水、土砂災害などに対する備えをしっかりと行ってください。



図4 梅雨の雨量傾向

7月は太平洋高気圧が北への張り出しを強め、梅雨前線が本州付近に停滞します。九州、四国、近畿、東海、関東甲信は梅雨明けする7月中旬にかけて強雨や大雨の危険性が高まります。北陸や東北でも中旬にかけて曇りや雨の日が多く、梅雨末期の大雨に注意が必要です。

※本見解は19日時点のものです。

予測が大きく変わる可能性もありますので、最新見解は、スマホアプリ「ウェザーニュース」または、ウェザーニュースウェブサイト「梅雨情報」(<https://weathernews.jp/s/news/tsuyu/>)にてご確認ください。

◆各地方の梅雨入り・梅雨明け予想

地方	梅雨入り			梅雨明け		
	2020年	2019年	平年	2020年	2019年	平年
東北北部	6月中旬	6月15日頃	6月14日頃	7月下旬	7月31日頃	7月28日頃
東北南部	6月中旬	6月7日頃	6月12日頃	7月下旬	7月25日頃	7月25日頃
北陸	6月中旬	6月7日頃	6月12日頃	7月下旬	7月24日頃	7月24日頃
関東甲信	6月中旬	6月7日頃	6月8日頃	7月中旬	7月24日頃	7月21日頃
東海	6月中旬	6月7日頃	6月8日頃	7月中旬	7月24日頃	7月21日頃
近畿	6月中旬	6月27日頃	6月7日頃	7月中旬	7月24日頃	7月21日頃
中国	6月中旬	6月26日頃	6月7日頃	7月中旬	7月25日頃	7月21日頃
四国	6月中旬	6月26日頃	6月5日頃	7月中旬	7月25日頃	7月18日頃
九州北部	6月中旬	6月26日頃	6月5日頃	7月中旬	7月25日頃	7月19日頃
九州南部	6月中旬	5月31日頃	5月31日頃	7月中旬	7月24日頃	7月14日頃
奄美	5月10日頃	5月14日頃	5月11日頃	6月下旬	7月13日頃	6月29日頃
沖縄	5月11日頃	5月16日頃	5月9日頃	6月下旬	7月10日頃	6月23日頃

※梅雨入り・梅雨明けには平均的に5日間程度の「移り変わり」の期間あり、表には移り変わりの期間の概ね中日を記載しています。

※沖縄・奄美の梅雨入りは、実際に各気象台が梅雨入りを発表した日付です。

※「平年」は、1981年～2010年の30年平均(入り・明けを特定しなかった年は除外)の日付です。

◆地方ごとの梅雨の天気傾向

地方	雨のピーク時期	雨量の傾向 (平年との比較)	天気傾向
東北	7月中旬	平年並	<p>東北の梅雨入りは北部、南部ともに平年並の予想です。今年は7月になると太平洋高気圧が北への張り出しを強め、梅雨前線は順調に北上。梅雨明けも北部、南部ともに平年並になる見込みです。</p> <p>6月は梅雨前線が本州の南海上に停滞するため、前半は天気が周期変化します。後半は曇りや雨の日が多くなりますが、梅雨の中休みがありそうです。降水量は平年並になる見込みです。</p> <p>7月は、梅雨前線が本州付近に北上し、曇りや雨日が多くなります。梅雨末期は豪雨や大雨の恐れがあり、河川の増水、家屋への浸水、土砂災害などに警戒が必要です。</p>
北陸	7月中旬	平年並	<p>北陸の梅雨入りは平年並の予想です。今年は7月になると太平洋高気圧が北への張り出しを強め、梅雨前線は順調に北上。梅雨明けは平年並になる見込みです。</p> <p>6月は、梅雨前線が本州の南海上に停滞するため、前半は天気が周期変化し、後半に曇りや雨の日が多くなります。降水量は平年並になる見込みです。</p> <p>7月は、梅雨前線が本州付近に北上し、中旬にかけて曇りや雨の日が多くなります。梅雨末期にあたる中旬は、豪雨や大雨の恐れがあり、河川の増水、家屋への浸水、土砂災害などに警戒が必要です。</p>
関東甲信	6月中旬～7月中旬	平年並か多い	<p>関東甲信の梅雨入りは平年より遅い予想です。今年は7月になると太平洋高気圧が北への張り出しを強め、梅雨前線は順調に北上。梅雨明けは平年並になる見込みです。</p> <p>6月は、梅雨前線が本州の南海上に停滞するため、上旬は天気が周期変化し、中旬から曇りや雨の日が多くなります。</p> <p>7月は、梅雨前線が本州付近に北上し、月の前半は曇りや雨の日が多くなります。</p> <p>6月は関東南部を中心に、7月は甲信を中心に大雨や強雨に警戒が必要です。</p>

東海	6月下旬～ 7月中旬	平年並か多い	<p>東海の梅雨入りは平年より遅い予想です。今年は7月になると太平洋高気圧が北への張り出しを強め、梅雨前線は順調に北上。梅雨明けは平年並になる見込みです。</p> <p>6月は、梅雨前線が本州の南海上に停滞するため、上旬は天気が周期変化し、中旬から曇りや雨の日が多くなります。</p> <p>7月は、梅雨前線が本州付近に北上し、月の前半は曇りや雨の日が多くなります。</p> <p>6月下旬から7月中旬にかけては豪雨や大雨の恐れがあり、河川の増水、家屋への浸水、土砂災害などに警戒が必要です。</p>
近畿	6月下旬～ 7月中旬	平年並か多い	<p>近畿の梅雨入りは平年より遅い予想です。今年は7月になると太平洋高気圧が北への張り出しを強め、梅雨前線は順調に北上。梅雨明けは平年並になる見込みです。</p> <p>6月は、梅雨前線が本州の南海上に停滞するため、上旬は天気が周期変化し、中旬から曇りや雨の日が多くなります。</p> <p>7月は、梅雨前線が本州付近に北上し、月の前半は曇りや雨の日が多くなります。</p> <p>6月下旬から7月中旬にかけては豪雨や大雨の恐れがあり、河川の増水、家屋への浸水、土砂災害などに警戒が必要です。</p>
中国・ 四国	6月下旬～ 7月中旬	平年並か多い	<p>中国の梅雨入りは平年より遅く、四国では平年よりかなり遅くなる予想です。今年は7月になると太平洋高気圧が北への張り出しを強め、梅雨前線は順調に北上。梅雨明けは平年並になる見込みです。</p> <p>6月は、梅雨前線が本州の南海上に停滞するため、上旬は天気が周期変化し、中旬から曇りや雨の日が多くなります。</p> <p>7月は、梅雨前線が本州付近に北上し、月の前半は曇りや雨の日が多くなります。</p> <p>6月下旬から7月中旬にかけては豪雨や大雨の恐れがあり、河川の増水、家屋への浸水、土砂災害などに警戒が必要です。</p>
九州	6月下旬～ 7月中旬	平年並か多い	<p>北部の梅雨入りは平年より遅く、南部では平年よりかなり遅くなる予想です。今年は7月になると太平洋高気圧が北への張り出しを強め、梅雨前線は順調に北上。梅雨明けは平年並になる見込みです。</p> <p>6月は、梅雨前線が本州の南海上に停滞するため、上旬は天気が周期変化し、中旬から曇りや雨の日が多くなります。</p> <p>7月は、梅雨前線が本州付近に北上し、月の前半は曇りや雨の日が多くなります。</p> <p>6月下旬から7月中旬にかけては豪雨や大雨の恐れがあり、河川の増水、家屋への浸水、土砂災害などに警戒が必要です。(※九州北部は山口県を含む)</p>
沖縄・ 奄美	5月末～ 6月中旬	平年並か多い	<p>5月10日に奄美で梅雨入りし、翌11日に沖縄で梅雨入りしました。奄美では平年並、沖縄では平年より遅い梅雨入りとなりました。梅雨明けは7月にずれこんだ昨年よりかなり早く、平年並の予想です。</p> <p>今年の梅雨の期間は平年並ですが、太平洋高気圧の縁にあたる期間が長く、平年より雨の降る日が多い見込みです。また、5月末から6月中旬にかけて、梅雨前線の活動が活発化し、豪雨や大雨の可能性があります。河川の増水、浸水被害、土砂災害に警戒が必要です。</p>